

DNA親子鑑定報告書

(見本)
(PCR法によるDNA親子鑑定)

報告書作成日
1999/1/12

Case No.	61828	母 山田 花子 00000 70/6/10 アジア人 1999年01月05日 61828-10	子 山田 一郎 00000 00/2/28 1999年01月05日 61828-20	擬父 山田 太郎 00000 68/10/3 アジア人 1999年01月05日 61828-30
Locus		Allele Sizes	Allele Sizes	Allele Sizes
ローカス(Locus)名称 検査したDNA箇所(染色体・セグメント)	D8S1179 3.01	12 13	13 15	14 15
を表示。通常10~15箇所を検査	D21S11 1.73	31 32.2	30 32.2	30 31
父性指数(PI) 「擬父が子の父である確率と一般集団男性が子の父である確率の比」を数値化	D7S820 2.22	8 11	8 12	8 12
肯定の場合、検査したすべてのローカス(箇所)において擬父と子のアレルサイズが一致し、PI(父性指数)がすべて実数にて示されます。	CSF1PO 1.79	12 13	10 12	10 12
	D3S1358 2.30	15	15 17 (両親から同じ型)	16 17
	TH01 4.92	6 7	6 を受け継ぐ	6 9.3
完全否定の場合、必ず3ローカス以上に おいて擬父と子のアレルサイズが一致せず、PIが0.00と示されます。(生物学上の父であればそのような現象は起り得ません。)また、偶然の一致により実数で示される他のローカスが現れることもあります。	D13S317 1.13	8 11	8 11	11 12
	D16S539 4.29	10 12	9 12	9
	D2S1338 4.56	20 26	23 26	19 23
	D19S433 1.41	13 13.2	13.2 14	13 14
	VWA 2.39	16 18	16 18	16
	TPOX 1.49	8	8 11	8 11
	D18S51 3.33	13 15	13 16 (両親から同じ型)	16 20
	D5S818 1.51	11 12	11 を受け継ぐ	11 13
	FGA 2.90	22 23	23 24	22 24
解説文(鑑定主文) 肯定の場合、'擬父は子の生物学上の父である可能性から排除されない'と示されます。(統計学に基づく排除法によるものです。) 完全否定の場合、'擬父は子の生物学上の父である可能性から排除される'と示されます。また、その理由(遺伝マーカーの欠乏)と、起因となるDNAローカス(箇所)が明記されます。	解説(主文)	<p>総合父性指数 378,995</p> <p>父性確率 99.999%</p>		<p>総合父性指数: 個々のローカス(箇所)で算出した父性指数をすべて掛け合わせた数値</p> <p>父性確率: 総合父性指数に基づき計算された擬父が生物学上の父である確率 肯定の場合、99.0%以上の父性確率 否定の場合、0%の父性確率(完全否定)</p>
	(見本)			父性確率算出式(%) = $\frac{1}{1 + \text{総合父性指数の逆数}} \times 100$

1999年1月12日 ここに署名し、宣誓する。

この結果解説は、報告された通りで間違いなく、上記鑑定はAABBによって規定されたDNA鑑定ガイドラインに沿って行われたものであることを証明します。

オハイオ州公証人署名及び捺印

オハイオ州公証人 Edward Harris
2000年1月2日まで有効

.....署名.....

Susan C. Lee博士 研究所長

DNA Diagnostics Centerは、米国血液銀行協会(AABB)及び、合衆国政府福祉省に認定されています。

この「鑑定書の見方」は、鑑定を受けた方々にご理解いただけるよう作成したもので、用語等を専門的に記述したものではありません。また、最も一般的な父子鑑定のガイドライン鑑定書(日本語訳)に基づいて作成しています。ご了承下さい。鑑定書に添付されている解説書(DNA鑑定の方法、鑑定結果の解説)とあわせてご参照下さい。